

「献血の日」は
こうして
生まれたっ!



毎年
8/21は

献血の日

「売血」
赤血球の少ない
血しょうばかり
の血液

「どこん
売血」
つらい仕事より
血液を売った方が楽だ!

赤血球が回復しない
ような短期間で頻回に
売血をされる方の血液は、
黄色い血しょう部分が
目立つ血液に...

昭和39年の日本
輸血用の血液は民間の
商業血液銀行により
売血される方の血液を
中心に集められて
いました。

生活が苦しい...
血液銀行
血液を売って
お金をしよう

治療の際、売血による血液
を輸血されたライシヤワー
大使は肝炎になってしま
いました。

駐日アメリカ大使の
ライシヤワー氏が暴漢に
襲われました。

昭和39年3月24日

「黄色い血」は輸血しても
効果が低いばかりか
貧血など健康への
悪影響も

このことから、8月21日は
「献血の日」と
いわれております。

輸血用の血液を
献血によって確保する
体制を確立する事が
閣議決定され
ました。

同年8月21日

世間での売血廃止の
機運が高まり、
高校生や大学生を中心と
した売血追放運動が
各地で起こりました。

「売血追放」
「売血反対」
「売血廃止」

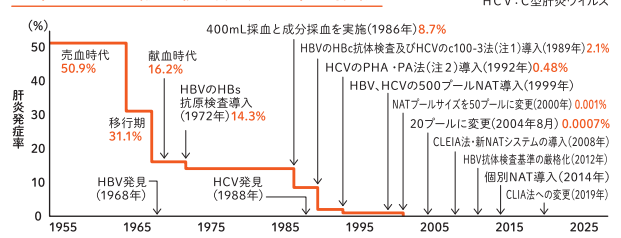


献血ってそもそもなぜ始まったの？

日本赤十字社は、1952(昭和27)年に日本赤十字社血液銀行東京業務所を開設し、血液事業を開始しましたが、当時は無償の献血の考え方は根付いておらず、民間の商業血液銀行による買血が盛んであったため、頻回で売血する供血者の「黄色い血」が社会問題になっていました。政府は血液事業の正常化を図るため、1964年(昭和39年)8月の閣議で輸血用血液製剤は献血によって確保することを決定しました。

その結果、国、地方公共団体、日本赤十字社が一体となった献血による血液事業が本格的に始まりました。

日本における輸血後肝炎発症率の推移



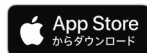
注1) c100-3法: C型肝炎ウイルス発見後早期に開発されたC型肝炎ウイルス抗体検査(第1世代検査法)
注2) PHA-PA法: 特異性・感度が改善されたC型肝炎ウイルス抗体検査(第2世代検査法)
※厚生労働省作成「血液事業報告」より引用

これからも安全な血液製剤を安定的に患者さんのもとへ

献血へのご協力をお願いいたします。

献血の予約はアプリから

献血Web会員サービス
「ラブラッド」の
ダウンロードはコチラ



※AppleおよびAppleロゴは米国
およびその他の国で登録された
Apple Inc.の商標です。
※App StoreはApple Inc.のサー
ビスマークです。
※Google Play および Google Play
ロゴは、Google LLCの商標です。